

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 708 号 令和 2 年 5 月

新型コロナウイルス感染症蔓延 対応業務等に従事されている皆様に感謝！

会長理事 田 中 尚 秋

昨年末、中国湖北省武漢市で確認された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、半年もたたないうちに全世界へと拡散してしまった。厚生労働省の令和 2 年 4 月 18 日の報道発表によると、国内における感染者は 9,795 例（内訳：患者 6,056 例、無症状病原体保有者 660 例、陽性確定例（症状有無確認中）3,079 例）、死亡者 154 名、世界における感染者は 220 万人弱、死亡者 15 万人強ということである。山口県でも罹患者 30 名となったが、これらの数字は、単なる通過点での数字でしかなく連日増加の一途をたどっており、今や医療崩壊が危惧される事態となっている。政府から 4 月 7 日に 7 都府県を対象として出された緊急事態宣言を受け、（公社）日本獣医師会も 4 月 8 日から 5 月 6 日まで事務局が閉鎖される事態となった。この宣言は、人の流れをかえって地方へ分散する形となってしまい、全国を対象とした緊急事態宣言を出さざるを得ない状態になったことは皮肉な結果である。この宣言を受け、当会も出勤者を減らして対応することとしたので、皆様にご不便をおかけすることになるがお許しいただきたい（この会報が皆様のお手元に届く頃、どうなっているかは今のところ不明であるが、5 月 6 日をもって終息できるかといえ、まず無理であろう。残り火が再燃するように、この感染者も限りなく“ゼロ”に近くならない限り再び増えることになるであろうから長期的な対策が必要であると考えている）。感染者数がいったん下がったからといって決して安心してはならない。

このウイルスは、実に厄介で謎の多いウイルスである。感染しても軽症や無症状の人が多く、感染の有無を調べる PCR 検査の対象とならないまま回復する人もいる。このことが地方へ拡散させる一因となったことは否めない。厚生労働省が抗体検査に近く着手すると報道されていたが、一般的に、ウイルス感染後に産生される IgG 抗体は、発症後 1 週間ほど経過した後に上昇するため、感染初期における状態を必ずしも反映していないと言われている。感染確認の

ためには、どうしても人的労力・経費がかさむ PCR 検査に頼らざるを得ない現状である。しかしながら、この疾病は潜伏期が数日から 2 週間程度と比較的長く、また風邪様症状等が出現してから 1 週間程度経過した後に急速に悪化し肺炎に至ることから、抗体の有無を調べることにより確定診断や治療法の選択に役立つことが期待されている。また、過去にさかのぼって回顧的にウイルス感染の有無について検証できるため、今後の疫学調査においても有用であると考えられ、この検査が大いに期待されているところである。このウイルスの性状等については、コロナウイルス研究の第一人者で、抗インフルエンザウイルス薬ファビピラビル（商品名：アビガン）の開発に携われた白木公康先生（現、千里金蘭大学副学長、富山大学（医学部）名誉教授）らの緊急寄稿

（1）新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のウイルス学的特徴と感染様式の考察の中で詳しく述べられている。拝読すると相手（COVID-19）の姿がおぼろげながら見えてきてその戦い方に勇気が湧いてくるのを覚える。厚生労働省の「新型コロナウイルスに関する Q&A」がより深く詳しく理解できるようにもなる。一般的に見逃しがちであるが、鼻をかんだ後、手を顔に持って行かないことやドアノブ等を触らないことの肝要さ等も指摘されている。コロナウイルスはエンベロープを有しているためエタノールや次亜塩素酸ナトリウム、エーテルやクロロホルム等の有機溶媒で感染性を失う（失活する）。マスクの表面では 1 週間程度生存することも明らかになったので、顔から外すときや外した後マスクの表面に触れないようにし消毒用アルコール等で噴霧消毒する等の措置が有効であろう。先生らはさらに（2）COVID-19 治療候補薬アビガンの特徴、（3）COVID-19 を含むウイルス感染症と抗ウイルス薬の作用の特徴、も緊急寄稿されているので、興味のある方はご一読いただくことを推奨したい。なお、白木先生執筆の「標準微生物学（医学書院）第 9 版、第

予告

令和 2 年度定時総会の開催

- 日 時 令和 2 年 6 月 14 日（日）午前 10 時から
- 場 所 山口県獣医師会 3 F 講堂（研修室）
- 議 題 あらかじめ送付する総会議案書による

- その他 定時総会終了後に、令和 2 年度山口県獣医師連盟通常総会を開催します。

なお、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大に伴い全国に向け緊急事態宣言が発出されました。そのため、5 月 7 日以降の COVID-19 の発生状況を勘案して理事会を含め定時総会の開催方法を変更することがあります。

7章ウイルス学各論」中のN. コロナウイルスと感染症 (P.512-518) には、従来、ヒト呼吸器コロナウイルス (HRCV) は環境中では3時間程度で感染性を失うとされていたが、SARSコロナウイルスは安定であることが示されている。好適な条件下では数日間感染性を保っていること (中国SARS対策委員会によると、24℃の条件下では紙や木、土壌、プラスチック

このような状況の中で医療関係者をはじめ、感染症対策全般の実務担当者として行政対応や検査に携わってられる皆様方、並びに狂犬病予防集合注射に出勤された動物病院開業の先生方等には敬意を込め心からの感謝を申し上げたいと存じます。我々獣医師は、有識者の一人としてこれ以上感染を拡大させないために一般の方々よりもさらに厳しく己を律し、非常事態宣言終了後もこの騒動が治まるまでは不要不急の外出の禁止、3密 (密接、密集、密接) の回避、汚染個所の消毒、手洗いの励行等を徹底し、長期戦に備えた対応の覚悟が必要であろうと考えます。

日本獣医師会が、世界のすべての人々がこの苦境を乗り越えられることを切に願うとともに、今後とも動物と人が共存する社会を目指して邁進してまいりますと表明されており、地方獣医師会で構成員の一人である小職としても全く同じ思いであるので、引き続きご支援・ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和2年度 中国地区獣医師会連合会定期総会への出席報告

常務理事 福島和彦

新年度早々の4月9日 (木)、午後0時30分から恒例の標記定期総会が松江エクセルホテル東急の会議室で開催されました。今回の定期総会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、中国5県の獣医師会から会長・常務理事のみの出席に限定された開催となりました。

開催にあたり、2019年度の担当事務局県であった (公社) 島根県獣医師会の安食政幸会長から昨年の獣医学術中国地区学会の無事終了、各地方会の支援協力と新型コロナウイルス感染症拡大に伴う東京都など7都道府県に緊急事態宣言が出される中での参集について謝意を示された上、今回の定期総会は、今年度の中国地区獣医師大会並びに獣医学術中国地区学会担当県の岡山県から開催に係る協議依頼があり、参集して協議していただく必要があったため開催した旨紹介された後、忌憚ない意見と活発な審議協力等の要請がありました。

来賓として日獣・古賀俊伸事務局長出席の予定でしたが、残念なことに緊急事態宣言が出されたことから日獣事務局閉鎖と業務停止による欠席となりました。

総会議事は、安食会長を議長に、①令和元年度事業報告及び収支決算、②令和2年度事業計画 (案) 及び収支予算 (案) に併せて第50回中国地区獣医師大会並びに令和2年度獣医学術中国地区学会開催計画 (案)、③令和2年度負担金の徴収 (案)、④役員を選任、⑤諸会議・講習会等の輪番 (案)、⑥新型コロナウイルスへの対応、⑦2020動物感謝デーの対応について審議を行いました。①から⑤までの議案については、原案どおり可決承認されました。

この結果、令和2年度の産業動物講習会 (中国地区)

クなどの表面で3日程度、痰や糞便中で5日、尿中で10日) なども報告されており、COVID-19に係るデータではないが参考になる。また、56℃の条件下で90分、75℃で30分となっており、湿度等の関係もあるので、そのまま適用することは避けた方が良いと思えるが気温が高くなっても対策を怠ると終息しないことを示唆しているように思えてならない。

は、山口県が担当となりました。また、⑥の新型コロナウイルスへの対応について、第50回中国地区獣医師大会並びに令和2年度獣医学術中国地区学会開催計画に協議が集中し、つぎのとおりとなりました。

1. 5月6日 (水) までに出されている緊急事態措置後も依然として全国的に新型コロナウイルスの発生が見られた場合、第50回中国地区獣医師大会並びに令和2年度獣医学術中国地区学会開催は中止する (5月11日 (月) に開催担当の (公社) 岡山県獣医師会が決定します)。

2. 中国地区獣医師大会等の諸会議が開催できない場合、大会議事については、書面により決議を行う。

3. 獣医学術中国地区学会開催中止時には、令和2年度の日本獣医師会獣医学術学会年次大会 (以下「年次大会」) に向けた優秀発表演題の選定は行わない。

⑦の2020動物感謝デーの対応として、中国地区獣医師会連合会としての参加は行わないこととなりました。

また、令和4年11月12日 (土) から16日 (水) の予定で第22回アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会が福岡市 (シーホーク) で開催され1~2日目に年次大会が併せて開催予定であることが示されていますが、この年は山口県が中国地区獣医師大会並びに獣医学術中国地区学会開催担当となります。

以上、令和2年度中国地区獣医師会連合会定期総会への出席報告としますが、新型コロナウイルス終息に向けた道程が見えない中、今年度の県学会、講習会開催手法・運営等を新たに決まった学会運営委員、3部会委員の方々とは十分に協議を行って参りたいと思います。

お願い

会員の異動報告について

春の人事異動に伴い住所など会員名簿の記載事項に変更が生じた場合には会員異動通知票により所属支部事務局まで、報告されますようお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大をうけ獣医界の関りは

山口支部 山野 洋一

(前山口県獣医師会長)

昨年末から中国湖北省武漢市で始まった新型コロナウイルス感染症は韓国、欧州諸国、米国に飛び火し国内でも感染拡大の非常事態を生じ過ぐる4月7日改正新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく初の緊急事態宣言が発令された。

新型コロナウイルス(COVID-19)は、感染力が強く蔓延が速いやっかいな存在なるも宣言期間は4月7日から大型連休の終了5月6日までの1か月間とされ、その骨子は東京・埼玉・千葉・神奈川・大阪・兵庫・福岡の7都道府県を対象に国民の生命・健康を守るための不要不急の外出自粛を要請し人と人との接触機会の削減、外出が必要な場合は3密(密閉・密集・密接)を避け人と人の接触距離を2m以上空ける[ソーシャルディスタンス(社会的距離)]よう求められた。一方、海外諸国で断行されている都市封鎖(ロックダウン)は、経済最優先のためか行わないとの見解が強調された。最たる当該根拠は、人と人との接触機会を7割、極力8割削減すれば2週間後には感染者の増加をピークアウトし減少に転じさせることが可能で爆発的な感染者の増加(オーバーシュート)も回避し封じ込めが可能との専門家の試算(見通し)に基づくものとされている。

ところでWHOが3月11日、世界的な大流行(パンデミック)を表明してから日本の緊急事態宣言は、ほぼ1か月後であり遅きに失した感強く、しかもこのような中途半端な対応に難敵きわまるこのウイルスとの闘いに打ち勝てるのであろうか。

現下の感染者は、日々急増の一途にあり各地でクラスター(感染者集団)が発生し感染経路不明の感染者が7割にも達しているようである。重症患者受け入れの感染症指定医療機関ですら院内感染や医療崩壊のひっ迫に直面しており過酷な前線の多くの医療従事者の御苦労に頭が下がる思いである。他方、経済危機を配慮しての補償等対応策案が小出しされているようであるが、まずは疫病との戦いが先決で長期戦覚悟の上で終息に向けての取り組みが肝要であらう。

さて、国や地方自治体に勤務する公衆衛生や産業動物分野の獣医師の多くは感染症や家畜伝染病対策等、実務者として関連の行政事務、研究、検査業務に従事しており現下の非常事態にすくなからずの関心と関りを考えておられることと思う。

筆者は、現在日々晴耕雨読等を常とする一国民ではあるが、過去研究や病性鑑定実務にも従事し数年前に医師会と獣医師会の協定に基づく相互学術・技術協力を約した当事者の一人として思いの一端を述べてみることにしたい。

○感染拡大と蔓延防止の鉄則 国内では産業界からの強い要請もあってか蔓延さ中の中国武漢市からの数次に亘るチャーター機による邦人帰国、加えて帰港した大型クルーズ船(ダイヤモンドプリンセス号)乗船者の取扱いが真に適切であったか初期の水

際防疫策の重要性に鑑み検証する必要がある。

○防疫演習のノウハウは活かさないか 家畜伝染病予防法に基づくHPAI、CFS、口蹄疫等の防疫は人の感染症対策と同一視することはできないが発生から終息までの手順に係る演習内容は国家防疫の見地から少なからず参考になるのではなからうか。具体的例として道路・交通規制、効率的な防疫車等による消毒法、医療従事者の防護服、ゴーグル、高性能マスク(N95)、フェースガード、帽子、手袋等の正しい着衣法など関りのできる場面ではなからうか。

○精度の高い迅速キットの早期開発と抗体検査 現在、感染の有無を検査するため上部気道ぬぐい液を採取の上、PCR検査(Polymerase chain reaction)が実施されているが、検査技術に熟達を要するだけでなく長時間と器材の整備に加えバイオセーフティ(陰圧室)の完備が要求され検査件数が大幅に伸びてないよう感染情報の実像は不明確で数字に現れない多くの感染者が存在しているものと思われる。このため血液による簡易検査キットの開発が進んでいるが精度が高まれば全国的に一般病院でも抗体検査の実施が可能となり疫学推計上のサーベイランスにも寄与するものと考えられる。

○伴侶動物への感染 海外の事例ではあるが、米国ニューヨークの動物園でトラやライオンの感染。伴侶動物では香港における犬2頭の感染事例とベルギーでの下痢や呼吸困難を伴う猫への感染事例が報告されており伴侶動物との過度の濃密接触は厳に避けるべく警鐘であると言えよう。一方、犬や猫からの人への感染について関わった確証事例は報告されておらず今後の課題ではある。

○国際化、グローバル社会の弊害 今や世界は一つ、人やモノが世界的規模で動き交流が進む中で普段は鳴りを潜めていたやっかいな病原体が牙をむき近時はエズ、エボラ出血熱、SERS、MERS等に人類は相次ぐ疫病との闘いである。今次の世界的な感染拡大のもととなったCOVID-19は、中国武漢市の海鮮市場で広がったようでこの市場では野生の数種の動物が売買されており動物保有のウイルスが人に感染し重度の肺炎の流行をもたらした新興感染症であると推測されているようであるが、獣医界として明確に動物由来感染症であると真に認知することに疫学上の原点の問題として確証されることを待ちたい。

終わりに、本稿が会報に登載されるのは5月の大型連休を過ぎた5月中旬になると思われるが、我が国の行動規制等を主体とする感染拡大阻止の効果がいか程の効を奏すのか…。要は、早期の有効なワクチンと治療薬の開発に大きな期待を寄せるものである。

なお、浅学非才かつ独断専行の論も多々あるかと思慮しており会員各位の忌憚のない御意見を拝聴できれば幸甚です。

頭をかかえるマレーグマ「ツヨシ」の永眠

徳山支部 橋本千尋
(徳山動物園)

2020年3月2日、徳山動物園で飼育していたマレーグマの「ツヨシ」が死亡しました。「ツヨシ」は動物園を長い間支えてくれたかけがえのない存在でした。年齢も、歴代国内最高齢の32歳。人でいうと90歳をこえるおじいちゃんです。体調を崩して約1年、毎日薬を飲みながら、最後まで本当によく頑張ってくれました。

異変を感じたのは2019年の3月。呼吸音の異状でした。「ツヨシ」の体調や年齢を考慮し、飼育員、獣医師、管理職で協議した結果、私たちは試験的投薬で病気を絞り込んでいくという選択肢を選びました。抗生剤、気管拡張剤、ステロイド等様々な薬を試し、最終的には6種類の薬を毎日飲ませることになりました。最初は好物のハチミツに混ぜれば簡単に投薬できていたのですが、だんだん薬を嫌がり始め、ハチミツでも投薬が難しくなりました。

そこからは「ツヨシ」の味覚と私たちの戦いです。薬が苦いなら、苦いけど甘いカラメルと混ぜて与えてみようか。薬の味以上に強いレモン汁と混ぜて与えてみようか。投薬に試した食べ物、飲み物を合わせると、50種類以上にもなりました。毎日毎日、どうしようかなと考えながらも仕方なしに薬を食べてくれる「ツヨシ」と、試行錯誤しながら投薬を頑張ってくれた担当者には、感謝しかありません。1回の投薬に2時間費やしたこともありました。

亡くなる2週間ほど前からは、どんなに時間を費やしても、全ての薬を飲ませることができなくなりました。それと同時に残餌量が増え始め、最期が近いのかもしれないという思いがよぎりました。十分に生きてくれて、徳山動物園に貢献してくれた「ツヨシ」には、できるだけ苦しまずに最期を迎えてほしい。動物園全職員の思いでした。経口で与えることができなくなったものは、ネブライザー(薬液を霧状にして気管支や肺に送る機械)で与えるようにしま



頭をかかえる「ツヨシ」



晩年の「ツヨシ」

した。「ツヨシ」は高齢のため、寝ている時間が長く、深い眠りについては朝一番と陽が沈んでからの2回で行いました。治療の途中で目が覚めた時は、手で顔を隠して迷惑そうにしていたのですが、それでも威嚇や攻撃はなく、最後まで治療させてくれました。

死亡前日まで、ツヨシは外の展示場に自ら歩いて出ていました。呼吸音の異状を発見してから、私は1年間毎日この外に出る姿を動画に撮影してきました。薬の反応や少しの変化を見逃さないように。たまたま動画を見返すと、最初の頃は、呼吸音はおかしくても、背中を掻いてと甘えてきたり、岩に登ったり、メスの発情に反応したり、「ツヨシ」の日常の行動がそこにはありました。動物が健康でいてくれることは改めて、嬉しく、幸せなことだなと感じます。「ツヨシ」を剖検した結果、気管が変形していたこと以外大きな病変は認められませんでした。寿命をまっとうし徳山動物園に貢献してくれたこと、様々な治療に協力してくれたこと、「ツヨシ」から教わった多くのことを、他の動物たちがこれからも健康で暮らしていけるようにいかしていきたいと思えます。

「書評」

「祖父の残したノート」

時重初熊博士上述 講義「家畜病体解剖学(全)」

常務理事 福島和彦

神奈川県在住の風間 誠氏がご自身の祖父である当時21歳であった風間卯熊(うくま)氏が日本獣医学会の育ての親ともいえる時重初熊先生の「家畜病体解剖学」の口述講義ノートを5年間かけて整理され、この度、日本獣医史学雑誌第57号(2020年2月20日発行)に「資料紹介」として寄稿されました。さらに、A4版300ページに製本され発刊されることとなりましたのでお知らせします。なお、事務局にも書籍関連の資料がありますので、閲覧は可能です。

書籍は、下記により入手可能ですので、ご興味のある方は、直接申し込みください。

価格: 5,000円(税・送料込み)

申込先: 〒251-0031 神奈川県藤沢市鵜沼藤ヶ谷1-10-6 風間 誠氏宛

電話・FAX: 0466-28-6997

メール: kazamaaa928055@gmail.com

「祖父の残したノート」
時重初熊先生上述 講義「家畜病体解剖学(全)」
明治39(1906)年
風間 誠

1. 目次
明治39(1906)年「日本獣医学界の発展」で「家畜学」の発展が著者の講義を概観し、概説が記述された。この講義は以下の通りである。

2. 時重初熊先生プロフィール

生年	明治19(1886)年
没年	昭和11(1936)年
出身	神奈川県藤沢市
学歴	東京帝国大学獣医学部獣医学士(1910年)
職歴	東京帝国大学獣医学部助教授、東京帝国大学獣医学部教授、東京帝国大学獣医学部学長(1925年)
著書	『家畜病体解剖学』(1906年)、『家畜病体解剖学』(1910年)

KAZAMA Makino: The Notes from Grandfather. The Excerpt about "Therapeutic Anatomy of Animal Pathology" by Professor Makino, FRCS(Ed), FRCS(J), FRCS(L), FRCS(S), FRCS(N), FRCS(O), FRCS(U), FRCS(A), FRCS(C), FRCS(I), FRCS(E), FRCS(D), FRCS(H), FRCS(M), FRCS(P), FRCS(R), FRCS(T), FRCS(Y), FRCS(Z), FRCS(X), FRCS(W), FRCS(V), FRCS(U), FRCS(T), FRCS(S), FRCS(R), FRCS(Q), FRCS(P), FRCS(O), FRCS(N), FRCS(M), FRCS(L), FRCS(K), FRCS(J), FRCS(I), FRCS(H), FRCS(G), FRCS(F), FRCS(E), FRCS(D), FRCS(C), FRCS(B), FRCS(A).

リレー随筆

平郡島出張記

リレー随筆のバトンを受け取りました大石です。はじめに近況報告をしますと、昨年度から異動もなく、引き続き東部家畜保健衛生所でお世話になることとなりました。4年目になりますが、よろしくお願いたします。

さて、今回は山口県でありながら、なかなか行く機会がない(?)平郡島をご紹介しますと思います。世間は連日新型コロナのニュースであふれていますが、少しでも癒しになれば幸いです。

柳井市平郡島は東部家保職員になって、はじめて訪れた島です。ここには若手の肉用牛農家Sさんの牧場があり、繁殖検診や子牛の育成指導などで年に8回ほど訪れています。柳井港から定期船にのって瀬戸内海を1時間40分。平郡西港を経由して平郡東港につくまでの船旅が最初の癒しポイントです。たいてい波もおだやかで、快適にゆったりとした時間を過ごせます。自分にとっては少し日常を忘れることができる貴重な時間です。昨年春先にはスナメリ2頭が泳いでいるのを見ることができ、ちょっと幸せな気分になりました。Sさんのお父さんによると、最近ではなかなか見られなくなったとのこと。

港に着くといつもSさんが出迎えてくださり、Sさんの車で牧場まで向かいます。柑橘類の山道を抜けると、牛舎と放牧場があり、事務所を出て2時間半後、ようやく仕事開始になります。繁殖検診が終わると、Sさんの牛飼いの仕事が終わるまで少し時間があるので、ここでもゆったりとした時間が流れます。Sさんが牛を離すと放牧地に出ていきますが、牛舎

や放牧地は海に面しているの、天気のいい日は放牧地の緑色と海の青色、牛の黒色がそろうって、やっぱり絵になるなと思います。

最近では島おこしの一環か、芸人さんが島で活動していたり、特産のさつまいもを使った焼酎が生産されています。焼酎は港近くの売店で販売しているのですが、最初は「平郡」の1種類でしたが、今では「平郡の黒」・「大嶽」と3種類に増えています。

また、この4月からは島にUターンされた方が民宿「夕風」が港近くにオープンし、予約すればランチも食べられるようになりました。まだ行けていませんが、島に行く日はSさんが予約してくださるので、楽しみがさらに増えたところです。

さて、コロナウイルスの影響で、柳井港発の航路には、島外からの釣り客は島に来るのを遠慮してほしいとの貼り紙がしてありました。確かに、高齢者が多い離島でまん延すると大きな被害が出てしまいます。コロナが終息して、安心して行き来ができるようになったら、ぜひ平郡島へ行ってください！

今回は今年度から東部家保に加わりました期待の新人弘中健人さんにバトンタッチします。

玖珂支部 大石 大樹
(山口県東部家畜保健衛生所)



目に青葉、山ホトトギス 初ガツオ

宇部厚狭支部 松田 明久
(なかこし動物病院)

すっかり山歩きを趣味とする者には良い季節になってきた。しかし、今年は新型コロナウイルスの関係で、とうとう日本山岳会など山岳4団体が登山の自粛を求める共同声明が出る有り様。今年松本からまずは常念岳、ともくろむ私にとってもシーズン到来にもかかわらず、しばらくは我慢の時期だ。

山に行くとは街では会えない色々なものに出会う。美しい花々、目を見張るような風景、そしていつも生活では出会えない生き物である。山で出会う生き物の代表格はやはりカモシカだろう。山に登るまでは滅多に会えない生き物、と思っていたが、それが結構いろいろなところで出くわす。登山口までの林道を車で走っていると横の急斜面でひょっこり出会うことが多く逆に登山道で見かけることはまずない。彼らが勝手にこっちを避けているのであろう。だが、南アルプスの仙丈ヶ岳では、夏になるとハイマツの樹林帯でもいるのだ。標高は楽に2500メートルを超えている。所謂、森林限界を超えている。もちろん生える植物も少なく、高山植物の保全目的で電流を流した電柵(電柵)が設置されていた。尾瀬の湿原や日光の戦場ヶ原では野生のシカ対策で柵が設置されていることを見かけるが、まさかハイマツの中に電柵が。ここらでは高山植物がカモシカの主食だそう。登山者にとっては花を愛でる楽しみではあるが彼らにしてみれば貴重なお食事なのである。電柵の電流は軽度でカモシカは驚くくらいであろうが、我々人間が触ったら結構やばいのでは(生憎触った経験はない)。山の上で雨に降られるのは下界とは違ってリスクが多く、雷もすぐ横だし、風が吹けば体まで持っていかれる。そのうえ電柵に触れてビリッときたら転んではがすのが落ちである。ぼつぼつ前にそそくさと退散した。

雨といえば、ライチョウであろう。ライチョウは雷鳥と書くが、確かに雨降りによく出会う。初めて会ったのは、白馬岳の稜線をしとしと雨に降られて登っていた時である。鳥は雨が嫌いで、雨が止みそうになると鳥が鳴きだす。しかしライチョウは雨がひどくなるとどこかから現れる。こっちは体は濡

れるし寒くなるのでさっさと行きたいところだが、彼らはポーズを決めながら、時にはカップルで、ある時は子連れで、と我々の撮影意欲を掻き立てるのである。ライチョウを撮る時のカメラは、防水性は必要である。

サルはどちらかというと里山に近いところで出会う。上高地では本当に慣れたもので、人間が横を通っても悠然としたものである。私は最近、静かな上高地を欲して厳冬期に入る人が多いのだが、雪と氷の梓川沿いでよくサルの群れを見かける。人間は天気の良い時にそっと穂高の神々のご機嫌伺いに歩いて入らせていただくのであり、厳冬期だから車が走ることもないから、サルには人間など眼中になく、明らかに態度はでかい。食べるものも少ないし、天気がいい時はそれこそ日向ぼっこで忙しいので、人間など相手をするだけ無駄なのであろう。我々は彼らのホカホカのウ○コを踏まないように注意して、そっと隠し撮りである。ここでもソーシャルディスタンスは大事である。

私は運がいいことにまだ熊とは出くわしていない。ただ、でかいウ○コが落ちていた経験はある。それも早朝の木道で、湯気もモフモフっと。こっちも出会いがしらは避けたいが、あっちもそう願っているであろう、クワバラクワバラ。

早くコロナが落ち着いて山でまた彼らに会えること願うばかりである。



雨の中の雷鳥



雪の中のサル

訃報

能津節夫先生のご逝去を悼む

下関支部長 山 縣 純 次



能津節夫先生が4月4日にご逝去されました。先生は、昭和25年4月生まれ、昭和51年山口大学獣医学科をご卒業後、林兼産業株式会社食品事業部に奉職。その後、同家畜魚類診療所に移られてからは、

近海魚を中心に魚類の研究をされ、関係学会の論文・発表も多く、下関市開業獣医師会でもご講演をいた

だき、その造詣の深さに感服いたしました。

林兼産業に奉職中、下関支部の活動と発展にもご尽力されました。温厚誠実で多くの関係者の方から慕われておられました。

4月6日に飛鳥会館にて多くの関係者参列のなか、葬儀がしめやかに執り行われました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

事務局からのお知らせ

獣医師会ホームページの更新を終え、会員の皆様に会員専用バーナーのID、パスワードをお送りしたところで。お忙しいですが、各種お知らせ等ご活用ください。また、「学術情報」のバーナーに、山口獣医学雑誌第1号（創刊：昭和49年1月）から第42号（2015年12月）をPDF化して掲載しました。「学会・セミナー情報」に今年度の年次学会中止のお知らせを掲載しております。

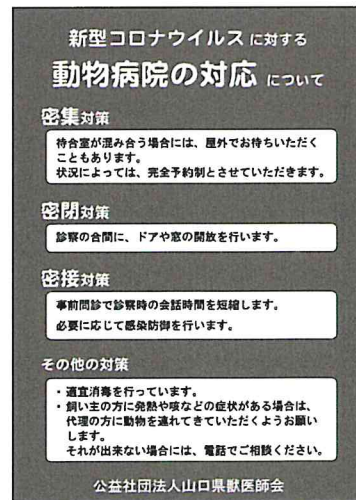
協力依頼

家畜伝染病発生時の防疫措置に係る協力者の募集について

事務局

令和2年(2020年)4月27日付け令2畜産振興第110号により山口県農林水産部長から豚熱(CSF)をはじめとする特定家畜伝染病が発生した際に、県職員だけでは迅速な防疫措置が困難となる有事の際の獣医師等の民間団体協力者リスト作成の依頼がありました。

つきましては、ご協力頂ける方は、令和2年5月20日(水)までに本会あてお申込みいただきますようお願いいたします。なお、従来お申し出いただいている方は継続させていただきたく存じますので、ご都合の悪い方はお申し出ください。(電話：083-972-1174)



事務局だより

4月に計画されていましたが多くの行事が、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止又は延期となりました。

- 4月9日 ・令和2年度 中国地区獣医師会連合会定期総会 松江市(松江エクセルホテル東急)
- 4月20日 会報編集委員会 山口市(県獣会館)
- 4月16日、30日 事業推進会議

次回編集委員会 5月20日(水) 13:30~

山口県獣医師会会報 第708号 令和2年5月10日(毎月1回発行)

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)
 電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554
 e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp
 http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 上田 晋平
 発行責任者 田中 尚秋
 印刷 コロニー印刷